

## 平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(多気町) の概要

11月18日(日)に多気町で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、車川山里ファン倶楽部の皆さん10名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



すこいやんかトーク会場の油田公園の  
いちょうが見頃でした。

### 【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 「夏だ！おかえり車川！」には、たくさんの子どもが来てくれる。また、「ふるさとコンサート」は、地元の子どもに演奏してもらうなど地区内の交流につながっている。
- (主人の) 転勤で奈良から三重に来た。ファン倶楽部に入会し、自然豊かな車川で(3歳の)子どもが夏の山里の遊びを満喫したり、大きな鍬を持って土を耕す姿を見て、たのしく思った。
- 将来の夢は、車川で中古の家を買って、畑を耕したい。また、地域に残っている知恵や技術を引き継いでいきたい。
- イベントに参加した人が、来年も参加するので申し込みたいとの声があったときは、嬉しくて、イベントを準備してきた疲れもとれる。
- 地区に長年住んでいても知らなかった昔ながらの遊び(竹鉄砲)や食べ物(じこ・じな)

を色々な方から教えてもらえるのが良かった。

車川のファンを1人でも増やせていけたらいいなと思う。

活動を継続するためには、やっている本人が楽しくないと駄目だ。

車川は、土砂災害が怖い。松阪農林商工環境事務所が4年計画で治山事業を実施していただき感謝しているが、奥瀬地区の土砂災害対策をお願いしたい。

高齢化や獣害で生産意欲が減少するなど遊休農地が増えており、農地の有効活用のためにも遊休農地を耕作していただく組織づくりをして欲しい。

スーパーまでは、車で15分かかり、移動販売の方も高齢化している。車を運転できるので現在は困らないが、バス路線のない車川では、買い物が難しくなっている。

子どもが働くところを考えるとどうしたらいいかわからない。



## 【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

土砂災害については、県内で200箇所の危険箇所があり、危険度が高いところから着手している。土砂災害警戒地域に指定すると様々な事業が実施できるが、その反面で地価が下落することもあり、三重県内の指定数は、全国で45番目となっている。奥瀬地区については、松阪建設事務所に確認したい。

遊休農地については、耕作する営農組合を応援する制度がある。この地区で遊休農地を耕作してもらえる団体について松阪農林商工環境事務所に確認したい。

獣害については、4月に獣害対策課を設置したが、獣害対策課があるのは、三重と高知だけである。また、緊急に対応すべき課題として「暮らしと産業を守る獣害対策プロジェ

クト」を実施している。具体的には、捕獲した鹿の活用、例えば、鹿肉ソースの発売やペットフードにも使用している。また、解体処理施設の整備や衛生基準の作成、猟友会や市町にも協力いただき捕獲力の増強、また、人里に降りてこないよう生息環境の復元を県内10箇所で行っている。

バスや買い物支援については、どのような支援がいいのか、また車川で生活していくのに一番優先度が高いのは何かを松阪県民センターで地域の方と議論していきたい。



#### 【車川山里ファン倶楽部とは】

人口減少や高齢化が進む多気町車川地区が抱える様々な問題について協議し、実践を図りながら、地域全体の活性化を図るため平成22年6月に発足しました。

油田公園でコンサートなどイベントの開催、休耕田に地元企業と協働してそばの栽培を行うなどに取り組まれています。